



みどりの里

宇奈月小学校だより
10月号・第6号
令和7年10月9日

目指す子供像 うんとかんがえる子 なかよくする子 つよいからだの子 きれいなこころの子

黒部市立宇奈月小学校 〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山205番地1

URL <http://www.tym.e.ed.jp/>

TEL(0765)65-2288 FAX(0765)65-2800

E-mail unazuki-es@tym.ed.jp

本物にふれる体験に勝るものはなし

～南極の氷贈呈式について～

校長 齊 木 裕

9月8日（月）に南極の氷贈呈式がありました。自衛隊富山地方協力本部より4名の方が来校され、南極の氷をいただきました。目的は、自衛隊による南極の氷贈呈を通じて、「子供たちに自然科学への興味関心を育むこと」「南極という極地での活動や環境について学び、地球環境への理解を深めること」「自衛隊の活動を知り、社会貢献の意義を考える機会とすること」です。

当日は、6年生の代表に南極の氷を贈呈した後、海上自衛官による南極についての説明がありました。説明は、以下の通りです。

南極の位置

- ・真南にあり、日本から約14000km離れている。車で10日間走り続ける距離である。

南極の研究

- ・南極には、世界中の科学者や観測隊員が多く滞在して、いろいろなことを調べている。

南極地域観測隊

- ・海上自衛隊の「砕氷艦しらせ」で南極に行き、半年間研究・調査する。「しらせ」には、研究者の他、医者や料理人等、約180名が乗り込んでいる。

南極の氷

- ・地下から氷を切り出し、日本へ持って帰る。

南極の食事

- ・曜日感覚がなくなるので、毎週金曜日にはカレーライスを食べることになっている。

プレゼンテーションソフトを使い、分かりやすく説明されました。その後、各学年に南極の氷を分けてもらい、実際に一人一人氷に触れてみました。徐々に溶け出る氷から、パチパチという音を聞きました。中から南極の空気が出てきているそうです。一通り氷の音を聞いた後、「質問タイム」になりました。私自身、1・2年生には、難しいかなと思っていたのですが、低学年からたくさんの質問が出ました。全部の質問に答えることができないくらいの数でした、「本物にふれる体験に勝るものはない」と実感しました。そのため、答えることができなかった質問は、後日メールで知らせました。新聞の「子ども・教育」に以下の記事が載っていました。



宇宙航空研究開発機構（JAXA）名誉教授的川泰宣さんは、宇宙を切り口とした授業を子供たちにしてきた。「宇宙というと、宇宙飛行士以外にも、ロケットの製造、宇宙食や宇宙服の開発などいろんな分野の人が活躍しており、子供の心に響くものが多様にありますよ。体験に勝るものはない。子供のうちにさまざまな経験を積み、自分の生きる道を見つけてほしい。親はチャンスをとたくさん与え、子供の可能性を広げてほしい。」

【9月21日付けの地方新聞より】

宇奈月小学校では、体験活動を大切にしています。それは、子供たちの学びを深めると同時に自分の生きる道を模索するのに役立っていると考えからです。特に地域の人から学ぶ体験は、心に響く教育活動になっています。今後も多くの体験活動を積み重ねていきます。

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒を対象に実施されました。本校でも4月17日、6年生が参加しました。

この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導内容・指導方法の改善や生活指導等に役立てることを目的としています。

内容は① 教科に関する問題（国語、算数、理科）と、② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。結果を受け、本校の児童の優れた点や、課題となる点を見直し、今後の学習指導、学習習慣の改善に生かしていきたいと思います。

なお、今回6年生が取り組んだ調査問題や正答例は、文部科学省、国立教育政策研究所のホームページ（今号に添付したQRコード）からご覧いただけます。

国立教育政策研究所

令和7年度 全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について

<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>



教科ごとの状況と改善点

① 国語科について 【 】は設問番号

○優れている点

- 1 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。（知識・技能）
- 2 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる。（知識・技能）
- 3 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思考・判断・表現）
- 4 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思考・判断・表現）

●課題が残る点

- 1 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思考・判断・表現 書くこと） 【問題番号2一】
・【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する。

【学習指導に当たって】

文章を書く前に構成メモを活用し、「中心」「理由」「具体例」等を整理する活動を取り入れるようにする。また、文章を段落ごとに分けた「段落カード」を用意し並べ替える活動を取り入れ体感することで、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えることができるようにする。

- 2 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思考・判断・表現 書くこと) 【問題番号2三】
- ・【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く。

【学習指導に当たって】

友達と話し合い、読み手の立場から「どこを詳しくすれば目的や意図に応じた文章になるのか」アドバイスし合う場面を設定する。その際、修正前後の文章を読み合い、その都度「伝わったか」をフィードバックし合うことで、書いた文章を詳しくすることのよさを実感できるようにする。

- 3 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。(思考・判断・表現…話すこと・聞くこと) 【問題番号1三(1)】
- ・【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する。

【学習指導に当たって】

「自分が何を知りたいのか」を明確にしてから聞く活動を導入したり、教師が発言の意図を考慮することができる発問をしたりしていくことで、聞く力の育成を図る。その際、「だれが・何を・なぜ」の視点で整理し、内容の要点を把握できるように指導する。

その他

- ・タブレット端末を用いて構成メモを作成したり、話す活動の振り返り等で動画記録を視聴したりするなど、ICTを活用する。
- ・読書をしたり、新聞を読んだりすることにより、活字に触れる機会を増やすようにする。

【国語に関する内容の児童質問紙調査から】

「国語の勉強は好きだ」「国語の授業の内容はよく分かる」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」とほぼ全員が回答しました。一方で、「得意」と感じる児童はやや少なめだったことから、自信を育てる指導や、達成感を得られる活動の工夫が今後の課題といえます。また、少数ながら苦手意識をもつ児童もいるため、個別の声かけや学習方法の工夫を通じて、より多くの児童が「得意」「好き」と感じられる授業づくりを目指していきます。

② 算数科について 【 】は設問番号

○優れている点

- 1 異分母の分数の加法の計算をすることができる。(知識・技能)
- 2 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。(知識・技能)
- 3 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる。(思考・判断・表現)
- 4 小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができる。(知識・技能)
- 5 はかりのメモリを読むことができる。(知識・技能)

●課題が残る点

- 1 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できる。(思考・判断・表現 数と計算 記述式) 【問題番号3(2)】
・ $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。

【学習指導に当たって】

例えば、分数の加法を「ピザモデル」や「数直線」で視覚的に表現したり、「共通の単位分数を見付ける」活動をゲーム形式で実施したりすることで、単位分数の意味理解につなげる。

- 2 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができる。(思考・判断・表現 変化と関係 選択式) 【問題番号4(4)】
・ 10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容容量が、増量前の何倍かを選ぶ。

【学習指導に当たって】

関数の考えを用いて、その数量と関係のあるほかの数量を見いだすことができるようにする。
例えば、【気温とアイスの売れ行き】や【歩数と距離】など、関数的な考え方を育てるための具体的な活動に取り組む。

- 3 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる。(思考・判断・表現 図形 記述式) 【問題番号2(4)】
・ 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分類し、それぞれの図形の面積の求め方を書く。

【学習指導に当たって】

実際に図形を切って並べる活動を通して、分割の感覚が育つようにする。その際、面積を求めるために必要な辺の長さなどを捉え、面積の求め方について式や言葉を用いて表し、説明できるようにする。さらに、ペアで説明し合う活動を取り入れ、「なぜそのように分けたのか」「どこを使ったのか」を「言葉で説明する力」が育つようにする。

- 4 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。(思考・判断・表現 データの活用 記述式) 【問題番号1(2)】
・ 都道府県Aのブロッコリーの出荷数が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く。

【学習指導に当たって】

教師が数量の比較に向いている棒グラフ、時間の経過による変化を表す折れ線グラフ、全体に対する割合を示す円グラフ、3種類のグラフを提示し、児童に「どんなときに使う？」と問いかけることで、特徴を整理し理解できるようにする。

ただし、帯グラフでは、割合の大小だけでは実際の量の大小が判断できないことがある。児童が割合と実際の量の違いを理解し、正しく判断・説明できる力を育てるために、帯グラフの割合だけでなく、合計量にも着目して、実際の量の大小を正しく判断し、理由を説明できる力が育つように指導を工夫する。

その他

- ・ペアやグループで説明し合う活動を取り入れたり、自分の考えを言葉で伝える時間を設けたりする。今後は、ノートやワークシートに「なぜそうなるのか？」を書く欄を設けることで、「言葉で説明する力」を育てる活動の充実を図る。
- ・分数や割合は図や数直線で表す練習をするようにしたり、図形の分割は実際に切り分ける活動や折り紙等で体感したりするなど、図やモデルを活用した視覚的な理解を促す。

【算数に関連する内容の児童質問紙調査から】

「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と算数の学習の意義を実感している児童が非常に多いです。また、「算数の授業内容はよく分かる」「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている」「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずいろいろな方法を考える」もおおむね良好でした。

一方で、「得意」「好き」と感じる児童が少ないことから、算数への興味関心や自信を育てる授業づくりを進めていきます。

③ 理科について 【 】は設問番号

○優れている点

- 1 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができる。(思考・判断・表現)
- 2 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができる。(思考・判断・表現)
- 3 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている。(知識・技能)
- 4 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている。(知識・技能)
- 5 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている。(知識・技能)

●課題が残る点

- 1 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている。(知識・技能 A 物質・エネルギー 選択式) 【問題番号2】(1)
 - ・アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ。

【学習指導に当たって】

金属サンプルを使って、磁石に引き付けられる物と引き付けられない物や、電気を通すものと通さない物を整理する学習活動に取り組む。その際、それぞれの実験結果を表に整理し、まとめるなどして、物質の性質について理解を深めるようにする。

- 2 レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができる。(思考・判断・表現 B 生命・地球 記述) 【問題番号3(4)】
- ・レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く。

【学習指導に当たって】

観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を立てる場面を意図的に設定する。例えば、発芽条件を変えた複数の実験を行い、結果を比較する。結果の違いに着目し、教師が児童の気づきや疑問を引き出す対話を重視しながら観察を続けることができるようにすることで、新たな問いを見いだすことができるようにする。

- 3 電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができる。
(思考・判断・表現 A 物質・エネルギー 選択式) 【問題番号2(2)】
- ・電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形 A の剣を人形 B に当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ

【学習指導に当たって】

ものづくりの活動では、解決したい問題を見いだすことや、学習を通して得た知識を活用して、理解を深める。また、児童が明確な目的を設定し、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正するといった活動の充実を図ることで、学んだことの意義を実感できるようにする。

その他

- ・実物、実験、観察を通じて、理解を深めることができるように体験活動を重視していく。
- ・ペアやグループで説明し合う活動を取り入れたり、自分の考えを言葉で説明したり、記述したり、発表したりする機会を増やす。
- ・児童が主体的に学びを進めることができるよう、問い→仮説→検証→まとめという探究的な学びの視点を重視した授業設計を行う。
- ・振り返りを習慣化することで、実験や活動後に「なぜそうなったのか」「どうすればよかったか」などを考える時間を確保することができるようにする。

【理科に関する内容の児童質問紙調査から】

肯定的な回答が多く、理科の授業は、児童にとって理解しやすく、興味をもって取り組める教科として定着している。得意意識や好意的な感情、学習の意義の認識も高く、授業の構成や活動内容が児童に合っていると考えられます。

一方で、「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたい」と回答した児童は少なかった。このことから、今後は理科の学びが社会や仕事とどうつながるかを意識することができる授業展開を考えていきます。

学習や生活に関する児童質問紙調査より

(○肯定的な回答の割合が高かった項目 ▲課題がみられる項目)

★主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- ▲授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立等を工夫して発表している。
- ▲授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができている。

児童は「自分で考える」「友達と話し合う」「学習を振り返る」といった主体的・対話的な学びの基本的な力を身に付けていることが分かります。

一方で、発表時の表現力や、学びを実生活に結び付ける力には課題が見られます。これらの力を育てるために、発表の場面での具体的な指導（構成・言葉選び・視覚資料の活用）や、学習内容と生活との関連を意識することができる活動の充実に、より一層努めていきたいと思います。

★ 学習習慣、基本的生活習慣

- 分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することはできている。
- ▲学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

児童の多くが「自分で学び方を工夫できる」と感じており、主体的な学びの力が育っていることがうかがえます。一方で、授業外の学習時間にはばらつきがあり、継続的な学習習慣の形成が課題です。

学校では、家庭学習の目安となる時間は、学年×10分の学習に取り組むように設定し、児童への指導と励ましをしています。また、タブレット端末を使って、児童が自ら目標を立て、自分のペースで進めていくことができるAIドリル（eライブラリ）も導入しています。

今後は、児童が家庭でも学びを継続できるよう、学習計画の立て方を教える、興味をもてる課題や活動を提案するなど、児童一人一人に応じた支援をしていきます。

★挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

- 自分には、よいところがある。
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。
- ▲将来の夢や目標をもっていますか。

児童の多くが「自分のよさを認識している」「幸せを感じている」と回答しており、自己肯定感や情緒面の安定が高い水準で保たれていることが分かります。

一方で、「将来の夢や目標」に関しては、具体的にもっている児童が半数程度にとどまっており、将来を見据えた学びや自己の可能性への気づきが十分でない可能性があります。

今後は、様々な職業や生き方に触れる機会を増やす、自分の興味・関心を深める活動を取り入れる、夢や目標を語り合う場を設けるなど、児童が自分の未来を前向きに描けるよう支援していきたいです。

★ICT を活用した学習状況

- PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

授業内での ICT 活用は高い頻度で行われており、児童の学習環境に ICT がしっかりと組み込まれていることが確認できます。これは、教員の指導力や学校の設備環境が整っていることの表れでもあると思います。

学力の土台は 安定した心と体

健全な心と元気な体が学習に前向きに取り組むための基礎となります。学校では、「信頼される学校づくり」や「分かる・できる・楽しい授業づくり」に一層努力していきます。

各家庭でも、これまで同様、お子さんへの励まし、家庭学習の習慣化、望ましい生活習慣の形成にご協力をお願いいたします。